

目的 本研究は、障害を持つ“ねたきり”老人にとって、どのような“ねまき”が、心地よく、快適なのか、また、病気の種類、障害の種類や部位など相違に対して、どのような“ねまき”が、介護、リハビリテーション・ケアしやすいのかを解明する。

方法 300 名の“ねたきり”老人のリハビリ訓練を行い、平行して“ねまき”の着用実態を観察。フォームと同じくする“ねまき”を、病態を異にし、障害の種類を異にする“ねたきり”老人に試着してもらい、試着者本人、ケア・ワーカー(家族)、理学療法士による問題点洗い出しのヒヤリング。

結果 300 名の“ねまき”着用の実態観察では、臥床の原因である病気の種類、病態、障害の種類と障害度、ケア・ステージなどにより、ねまきの種類、フォーム、着用の仕方に相違が認められた。がんの末期では安静保持をオーとし、ケアしやすい和式長着。難病(リウマチ)で生活全介助のクライアントは和式二部式。事故・災害で背髄損傷、両手足麻痺の場合は褥創や関節拘縮や尿路障害をおこしやすいので、背縫いのない和式ねまきの上衣と“ズボン下”の上部断裁して足にはかせ、他動的運動をして拘縮予防。このように多様。臥床理由別、病態、障害の種類・障害度との関連させて、試着ねまきに対して要求される改良点を整理し、大会発表にデータを示し報告する。